

# 私幼だより

社団法人 福岡市私立幼稚園連盟

URL <http://www.fyr.or.jp>

■編集/広報委員会 ■事務局/福岡市早良区西新7丁目13-1 福岡市私立幼稚園教育センター ■印刷/株式会社ペイジ 発行年月日 2013年3月11日  
TEL (092)822-0080 FAX (092)822-0094



会長あいさつ

## 新時代の流れに

福岡市私立幼稚園連盟

会長 柿迫 重正

昨年末の衆議院選挙で約3年半ぶりの自民党による政権奪回と共に新しい年が始まりました。前政権時代に曖昧模糊で混沌を極めた日本がどのようなシナリオで再生されていくのか、とりわけ幼児教育の分野において、子どもの健やかな育ちがどのような形で保証されていくのか、保護者が負担する教育費の軽減はどうなのか、子どもの教育のみならず親や家庭における教育の在り方はどうあるべきなのか、これらの課題を現場に携わる我々があらためて国や自治体にしっかりと訴えていく必要があります。

また昨今、我々の現場では人材確保が大きな問題となっています。養成校に求人を出しても応募が少なくなかなか採用に結びつかないからです。これに対して保育所がどうかとか一般企業がどうかと言っても始まりません。なぜならば、それはひとつの時代の流れで避けようのないことだからです。ですから我々は、愚痴ったり嘆いたりする前に、何とか知恵を絞り、克服すべく、さまざまな対策を講じていかなければなりません。そのことが時代の流れに対応していく条件と私は思います。

5年後は15%、10年後は6.3%、20年後は0.3%という統計があります。これは、ある機関紙に掲載された民間企業の生存率です。日本の企業258万社中、20年後まで生き残るのはわずか0.3%の7,764社というらしいのです。もちろん私立幼稚園は決してそういうことはありませんが、時代の流れに対応することがいかに難しいことを物語っています。

したがって今年は、昨年より力をいれている雇用対策を幼稚園キャリアパンのみならず、各養成校との個別懇談会や採用試験シーズン前にあらかじめ学生に幼稚園の存在をアピールするため養成校訪問し幼稚園教諭の素晴らしさを訴える地道な事業も推進して参ります。

最後に今年には巳年です。蛇は脱皮しながら成長していきます。脱皮できない蛇は滅びるといいうのは有名なニチエの言葉です。脱皮はもろいですが、蛇の動きのような柔らかな発想も持ちつつ、会員の皆様と共にあらゆる局面を乗り越えていく所存です。今年もよろしくお願いたします。

## 幼稚園宣伝

平成24年10月1日、西日本テレビ放送(TNC ももち浜ストアプラス)にて、幼稚園教諭(4名)が平成25年度私立幼稚園入園案内のPRでテレビ生中継出演しました。

### 連盟のホームページがリニューアルします。



★各園のページの更新もされていますので、ぜひご覧ください。より使いやすく、よりわかりやすいホームページとなるようにデザインやページの構成を全面的に見直しました。今後とも、内容の充実を図ると共に、わかりやすい情報をタイムリーに発信してまいりますので、引き続きご利用ください。



▲打ち合わせ中



▲スタンバイ中



▲本番生中継

右から  
徳本 充浩 先生(星の原幼稚園)  
美野 絵理子 先生(あすなろ幼稚園)  
木村 光裕(こきわ幼稚園)  
大久保 美和子 先生(高取幼稚園)

福岡市の私立幼稚園は、本日から平成25年度の入園案内を配布しています。現在、幼稚園ではほとんど全ての園が通常の保育後に、夕方までお子様をお預かりしています。お仕事をされているお母様もお子様を幼稚園に預けられませんか？ 願書受付は、11月1日からです。3歳になるお子さまをお持ちのお母様は、幼稚園選びに118園の全てがわかる福岡私立幼稚園連盟のホームページをご覧ください。

開催日時：平成24年11月22日(木) 17:30～20:30  
 開催場所：ホテルニューオータニ博多 3F 芙蓉の間  
 (参加園：96園 参加人数：348人)

記念講演

「子育てとワタシ」

講師：齊藤 ふみ 氏

記念講演として福岡を中心にテレビやラジオでマルチタレントとして活躍中の齊藤ふみ氏をお招きしてお話を伺いました。齊藤氏は第一子を出産後、翌年に自身がデザイナーを務めるベビー服ブランド「SHEEPMAN WONDER」(シープマンワンダー)を立ち上げ、仕事と子育ての両立に奮闘されておられます。その齊藤氏が自身の子育てについてお話を聞かせてくださいました。



以前、共働きをしている家庭の子どもは保育園に行くことが普通でしたが、現在では幼稚園の時間外保育なども増え、今のお母さんたちは幼児教育の環境施設において選択の枠が増えたと言われます。齊藤氏自身も、幼少期「両親が共働きのため保育園に通われたそうですが、幼稚園という新しい環境を知りたいという思いから、お子さんを幼稚園に通わせることを選ばれたそうです。

現在、仕事と子育てに奮闘中の齊藤氏ですが、忙しい中にあっても自分への投資は大切であり行っているそうです。化粧品などの美容はもちろん、

下半身の代謝をよくするための運動など、「きつときは休む」というルールを作って毎日続けておられるそうです。また、いっぱい泣いた後は口角を上げて笑う、辛い時は笑うと、日頃から笑う事を心掛けておられるそうです。

31歳で結婚し現在7年目を迎えられる齊藤氏、自身は小学校に上がるまでは六畳一間に家族4人で住んでいたそうです。ご両親が共働きのため不在が多く、いつも兄と二人で留守番をしていたとのこと。家庭は貧しく母はタッパーウェアの仕事をしながら家計を支え、子ども二人を育てていたそうです。父親が母親にプレゼントをあげる姿など、一度も目にしたことがなかったそうです。しかし、そんなお父様がお母様の68歳の誕生日にプレゼントをあげられたそうです。娘の目から見ればなんでこんなものと思うようなものだったそうです。お母様はとても喜んでおられたそうです。この姿を見たとき、父と母はこうやって厳しい中を二人で乗り越えてきたのだと思ったそうです。また、ご両親の姿を通し、ご自身の子育てに対する考え方、向き合い方も次のように変わったそうです。

- ・子どもを預けても後悔しない仕事を選ぶ。
- ・子どもが寝る時は、自分も寝る。
- ・子どもが起きる時は、一緒に起きる。

このことを教えてくださったお母様は、齊藤氏にとって尊敬する方であり理想の母親だそうです。現在の自分を創り上げた家族の歴史は、今後どんなに辛いことがあっても乗り越えられる自信へとなったとのことでした。

## アトラクション



カワムラバンド演奏



日時：平成24(2012)年

9月7日(金)10:30~12:00

場所：私立幼稚園連盟教育センター

出席：29園 95名

演題：「ママが輝けば子どもも変わる」

講師：太刀山 美樹氏

M・K・Fユニット代表



講師の太刀山美樹先生は23歳で結婚出産し、2人のお子さんを育てる専業主婦でしたが、福岡大学体育学部で学んだ運動心理学等を生かした仕事が出来ると、モヤモヤした毎日から発奮し、「愚痴を言う前に、自分でできることをしよう」と、親子エアロ教室を始めました。利用者が集まるにつれて、もっと専門的に勉強しようとして健康運動指導士等の資格を取得、その後、専門学校講師や、NHK福岡体操コーナー担当を経て、07年にソーシャルビジネス株式会社M・K・Fユニットを起業されました。0歳からの心と体の応援としての運動教室を08年11月に、イオン福岡伊都ショッピングセンター(福岡市西区)に設立しました。講演、教育研修、ボランティア、研究等に励

んでおられます。

「将来の夢はそこそこのいい」という現代の若者の夢のなさに、「自分で食べていける人間に育つ事」、そのために、0歳から自信を付けていく育て方、認め励まして、子どもの挑戦力を育てていくことを熱く語られました。御自身の子育てを振り返っての体験や思いを正直に、そしてパワフルに語りながら、子育て中のお母さん方を励まし、エールを送られた。

また、「自分の気持ちを見つめてみませんか？」というひらめきアンケートを取り入れて、お母さん達が自分自身の心、思い、自尊心、力等に気づき、また隣の方と分かち合う喜びを体験して癒しを頂く時間もありました。ここで、お母さん達の素敵な笑顔がいっぱい見られました。新しい講演のスタイルだと感じしました。



日時：平成25(2013)年

1月18日(金)10:30~12:00

場所：私立幼稚園連盟教育センター

出席：22園 61名

演題：「おかしなママさん今すぐ子どもと『お金の話』をしてください」

講師：鶴田 明子氏

ペアレンツサポートオフィス代表

今回の講演会は、講師の方のアクティブ・ペアレンティング(より良い親子関係講座)のリーダーとファイナンシャルプランナーの二つのお立場からのお話で、とても興味深い内容でした。

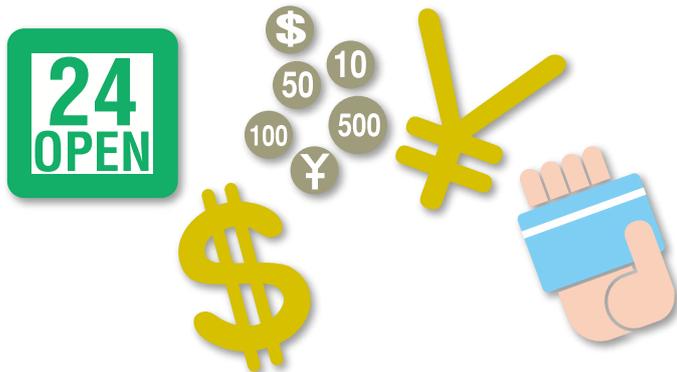
幼児期の子育てから思春期を経て自立までの親子関係と、その時期毎に関わるお金の話、また子どもとお金の話をする事により「自立と自律」が育まれるというお話には深く納得しました。

より良い親子関係を築き自立させるためには、

- ①出来ることに目を向けて子どもの心を満たす(自尊心・自己肯定感)こと。
- ②おこづかいの使い方やその他日常の些細な事も子ども自身が考え判断できるよう任せてみる事。
- ③その結果に対して責任をとることを学ばせること。

④親は子どもが自立できる時期にきたら子育てを終えること。

この4つのことを学びました。日々雑事に追われ、分かってはいけるけれどつい…が現状ですが、子育ての目的「保護者がいなくても幸せに生きていけるよう自立させること」に向けて、子どもと一緒に少しずつ歩んでいきたいと思いました。



第4回 主任研修会

日時：平成24年11月13日(火)  
 場所：私立幼稚園連盟教育センター  
 出席園：37園 出席者43名  
 演題：『教師の質の向上を見据えた主任の役割』  
 講師：西南学院大学人間科学部  
 児童教育学科 門田 理世 先生



前回に引き続いて2回目の門田先生の研修で、前回はビデオを使用したのが、今回は、写真を使用している研修会だった。学校教育法に位置づけられる学校としての幼稚園の立場を明確にして、義務教育ではないが、その自由度の中で、教師の質の向上を見据えた園内研修のあり方の工夫と体験の研修であった。

学校評価の中に、自己評価が入ってきたが、それを私達はどうか考えていけばよいのだろうかという試みでもある。

研修の内容は

①各テーブルに6枚の写真(色々な国の子ども)のいない保育室の環境構成と物を写している(を配り、その中から3枚を同じテーブルのメンバーで選ぶ。

- ②グループの中で司会者と記録者を選ぶ。
- ③選んだ写真を各自が見て、20分間、個人的に自分が気づいたことをまず用紙に書き込んでいく。ゆっくりとした時間の中で、気づきがどんどん増えてさらに書き込んでいく。内容を語ることや評価を目的とせず、気づきを重視しているところが特徴である。
- ④自分の書いたことを話していく。
- ⑤グループで一番多く語った写真についての内容を各グループから発表する。
- ⑥全体のまとめとして、一人ひとりが自由に発言する場を作っていくこと、他者の気づきを知っていくこと、面白さ、発見、驚き、共感の体験、話し合いを進めるためにどんなことを心にとめたらよいのか等、体験を通して学んだことの分かち合いをした。良く観て、自分の感覚でとらえ、考える、そのための時間を十分にとると、それぞれの考えが多く出され、相手の考えを知り合え、認め合え、そして、さらに、自己に気づかされ、また、仲間と共に語り合うことによって、事の本質まで導かれることを体験していただけることを学ぶことができた。

研修には、情報を伝える研修と、実践を積む研修があるが、いかに自分自身の立場、役割を廃して、参加しやすい風土作りの大切さ、自分に関係のない話や写真を題材にして、ちがう観点から自分の保育を考えることができるかどうか、自分自身で考える時間を作っておけることから、話しやすい、



ここでは話せるという風土を作ると、個人のことではなく、園全体に、子どもについて語る風土ができ、それは、園の保育力を高めることになる、とりもなおさず、個人の自己評価が、学校評価と連動していることが分かる。  
 とても楽しい研修で、自分の園に戻ってさっそく取り入れてやってみたいという思いを強く頂いた研修会であった。  
 この研修は、平成24年3月に出された財団法人全日本私立幼稚園幼児教育機構による『私立幼稚園における学校評価推進のための研修のあり方に関する研究報告書』を基底にした研修であること門田先生より説明がなされた。

## 第2回 2年目研修会

日時：平成25年1月30日（水）15:30～17:00  
場所：私立幼稚園センター  
出席：45園 75名  
講師：那須 信樹氏（中村学園大学短期大学部教授）

### “対話”で深める子ども理解Ⅱ（応用編） ～保育向上のためのふりかえりの力を身につける～

#### 2年目研修会に参加して参加者の声

視野を広げ、子どもについて考える機会を頂けたことに感謝します。また、6名～7名のグループを作り対話をしながらの研修で、初めて会う同じ職種の方々と話をする貴重な機会となりました。



子どもの写真（保育の瞬間）を用いて、写真にタイトルを付け、なぜそのタイトルにしたのか理由を考えることや、5領域の視点からその写真を見た時にどの領域に関連しているのかを考えるなどのフォトラーニングを実践しました。日々のなげない保育実践を写真に収めることで、よりよい保育を行う上でどのような改善や配慮が必要かをじっくりと考えられ、保育を振り返るための手段として写真を利用することができると知りました。実際に自分の保育の振り返りの際にも活用してみようと思います。

また、この研修に参加して印象に残っていることは、他園で働く方々との対話の中で様々な考えや思いがあるということです。5領域を通して写真を見るだけでなく、その人の思いや園の方針に基づいた考えなどが反映され、他人多様で大変興味深いものでした。

この研修を通して、幼稚園教諭としての責任感と誇りを持つこと、また総合的で且つ複合的な保育を行うために、意識的に5領域から子どものことを考えられる視点を持つことや振り返りをして次の保育へ繋げる力を持つこと、そして教師それぞれの考え方や個性を活かしながら保育を行うことが保育の向上へ繋がっていくのだと学びました。



## 2年目をふりかえって

セント・メリー幼稚園 教諭 氏家 早苗  
中村学園大学短期大学部  
幼児保育学科 卒業



幼稚園教諭の仕事始めて、早や2年が過ぎようとしています。

私は中学生の時、職場体験で保育園に行かせていただきました。そこで、たくさん子どもたちに囲まれながら成長を見守ったり、一緒に新しい発見をしている先生方の生き生きとした表情に憧れを抱いて保育の道を目指そうと思いました。

夢であった保育の道に進み、1年目の6月に公開保育をさせていただきました。就職したばかりで右も左もわからず、経験や活動の進め方、子どもたちへの声かけの仕方などたくさん考え悩むこともありましたが、園長先生を始め多くの先生方にご指導していただき、何とか無事に終えることができました。このような機会を通して、自分の保育を多くの方に見ていただき、いろいろな考え方や保育を学ぶことができたことにとても感謝しております。

日々の保育や行事の中で先生方に頼ってばかりでなく、いただいたアドバイスやご指導をもとに試行錯誤しながら保育を行っています。しかし、子どもたちへの声かけの仕方や教材研究、指導の進め方などまだまだ勉強不足な部分があり、他の先生方や子どもたちにも迷惑をかけてしまう事が多々あり申し訳なく思っています。とても頼りない担任ですが、子どもたちは一生懸命私についてきてくれようとしているので、これから先もその瞬間、その時期の子どもたちに1番よく合った声かけや進め方などができるような保育者になれるよう、日々アンテナを張ってより多くのことを吸収していきたいと思っています。

来年度は3年目になるので、個人の仕事だけでなく園全体の仕事も少しずつ覚えていけるように努めていきたいと思っています。



松原こひつじ幼稚園 教諭 下稻 美里  
福岡女学院大学人間関係学部  
子ども発達学科 卒業



幼稚園教諭になった1年目から幸いなことに、担任を任せてもらい学びの多い毎日を過ごしています。社会人として、教師として全てが初めてのことばかりで、周りの先生方に助けて頂きながら、1日1日を只々必死にこなした1年目。2年が過ぎた今、年間の内容に見通しを持って保育をすることが出来るようになり、ほんの少しだけ余裕を持って保育が出来ようになった気がします。

縦割保育ということもあり、学年や発達段階によって、又一人ひとりの子どもたちに対して語り掛けや援助の方法を合わせていくことは、幅も広く毎日難しさも感じますが、月日を重ねるごとに心も体も成長していく子どもたちの姿を見ると、貴重な時期に子どもの側で寄り添うことが出来ることの嬉しさ、そして使命感を感じます。

友だちに自分の思いをなかなか伝えられなかった子どもが、降誕劇の役決めの時にこの役がしたいと主張ができた時。喧嘩をして相手の気持ちを考えることや、心からごめんねの言葉が出てきた時。自分がもうすぐ年長になることへの期待や憧れを持つこととともに、一緒に過ごした年長が卒園することに寂しさを感じている年中の姿。一人で排泄が出来なかった子が、自分一人で出来るようになった時の嬉しそうな表情。大人にとっては当たり前のことでも、この時期の子どもたちにとっては生まれて初めて経験することが沢山あります。どんなに小さなことでも、その“できた”の成長を見逃さず、子どもと共に楽しみ、喜べる教師でありたいです。

この2年間を振り返り、子どもたちの1番近くで寄り添い成長を見られることができる仕事であることに改めて幸せを感じます。子ども達と共に過ごす中で、幼稚園教諭としてこの時期にしか経験できないことを提供することや、子どもと気持ちを分かち合うこと、時には上手くいっていない時に一緒に考えること等、沢山の愛情で満ち、どんな時でも子どもたちにとって身近で安心できる存在でありたいと思っています。



幼児期の教育に携わる幼稚園教諭は、社会的な負託を受けた「専門職」と位置付けられています。一般的に、専門職には高度な知識・技術・態度・豊かな人間性、そして倫理観が求められます。この要件を満たし続けるためにも、幼稚園教諭には常に自覚的に「成長し続ける」「学び続ける」姿勢を持ち続けることが期待されます。自覚的に自らの専門職としての資質を高めていくためには、「研修」が欠くことのできない必須条件となります。

ある調査研究(那須、2013)によれば、研修の意義や必要性は認めるものの、実際に園外での研修を受けに行くとすれば時間的・金銭的な制約が多く、「参加したくても参加できない」といった教諭の声も聞かれるようです。このように、幼稚園教諭の資質向上のための研修を取りまく環境は、決して充実しているとは言えない面もあるようです。

そこでいま、改めて注目され始めているのが「園内研修」に対する取り組みです。私たち、私立幼稚園連盟加盟各園においても、この園内研修に熱心に取り組んでいる幼稚園がたくさんあります。しかしながら、気にはなるものの、実際のところ他園の園内研修を知る術は殆どないといっても過言ではないでしょう。そこで……

今回より、その気になる、他園の園内研修に対する取り組みについて紹介する連載コーナーを設けました。題して、「なるほど!となりの園内研修!!」。園内研修の内容をはじめ、時間をかけずに短時間で、そして何より楽しい雰囲気の中で効果的な研修成果を得るための様々

な工夫などを紹介していきます。

第1回目となる今回、紹介するのは中村学園大学付属あさひ幼稚園の事例です。あさひ幼稚園では、園内研修を他園の教諭や大学の研究者、実習生も巻き込んだ「公開型の園内研修」を試行的に実践されています。では早速その取り組みについてご紹介しましょう!

なるほど!となりの園内研修!! VOL.1

中村学園大学付属あさひ幼稚園(城南区)の取り組み

◆公開型園内研修「エピソード」:「外部幼稚園教諭を交えて」

1. 研修日時:2012年10月19日
2. 研修テーマ:子どもの遊び場、再考
3. 講師:PLAY FUKUKOKA代表

4. 研修内容(概略) …『遊び』とは何なのかという定義を確認しながら、発達過程を踏まえた遊びの段階性について見直していきました。また、現在「子どもに迫る危機」についての話を伺い、大人になった時に必要な力やそれを身につけるための幼少期からの環境構成がいかに大切なのかについて学ぶことができました。最後に、大人としての子どもへのかわり方のポイントについて話し合い、参加者二人ひとりごとの学びをラベル(付箋)に記入することで、参加者同士、共有することができました。

5. 当日の研修風景



6. 外部幼稚園からの参加者の声

中村学園大学付属あさひ幼稚園の園内研修に参加して 園村衣里

研修に参加させていただきありがとうございます。ありがとうございました。今回の研修を受けて、初めて「プレーパーク」活動について知りました。思いつきり絵を描く活動、いろんな素材を使って遊ぶ活動など、どれも興味深いものでした。

私が子どもの頃は、家の近くに川や山などの自然がいっぱいあって、幼稚園や小学校から帰ったあとはよく遊びにいき、幼児期の経験の中で、五感を思いつきり使って体力や感性を豊かにしていくことができたのだと思います。

遊びが仕事と言われる子どもたちにとって、思いっきり遊ぶ環境を提供しているPLAY FUKUKOKAの取り組みは、これからもっと必要とされるなと感じ、保育者として子どもの遊びがもっと広がるように環境を工夫し、一緒に遊びを楽しみたいと思いました。それから、「危ないことをするとき」は、子どもが伸びようとしているときだ」と古賀先生がおつ

しゃっていました。が、私自身、子どもたちと一緒に過ごす中で、「怪我がないように」と安全面を優先してしまいがちです。子どもたちの挑戦する気持ちをもっと伸ばしていけるように見守る姿勢も大切にしていきたいと思います。

また今回、他園での研修を受けた際、園内を見学させていただきました。他園の中を見るときは機会が普段ないため、子どもたちの日々の活動や環境を見ると、一つ一つが新鮮でした。保育内容や子ども様子等意見の交換ができる機会が欲しいなと感じました。

7. あさひ幼稚園園長コメント

いま専門職としての幼稚園教諭に求められているのは、「幼稚園教諭同士の実践や経験知、そして研究知を融合させてより豊かな保育実践につなげていく」ことだと思えます。そのためにも、自園だけの考えに固執してはならないと思えます。他者(他園)に開かれていくことで得ることもたくさんあると思えます。

もう一つ、園村先生の研修の感想の最後の方に書かれていることもとても意味があることだと思えます。つまり、他園の保育環境や実際の活動を目の当たりにできるのは、その日限りの準備されがちな公開保育の日だけではなく、こうしたごく普通の日常的な園生活の様子を見る機会を増やしていくことで、日ごろの自分の保育を客観的にふりかえることができるようになるのではないのでしょうか。完璧な保育なんてないわけです。もっと気軽に園訪問し合える関係づくりができた方がいいですね。

◆公開型園内研修「エピソード2」:

「美習生・大学教員も巻き込んで」

1. 研修日時: 2012年11月15日
2. 研修テーマ: 食育(食を営む力向上プロジェクト)について

3. 研修内容(概略): 園内で取り組まれているプロジェクト研究の一つである「食を営む力の育成と向上」(食育)の中で、専任の管理栄養士から提示された『楽しく食べるとは?』というテーマに基づいて、グループディスカッションが行われました。2つのグループから出た意見を発表し合い、最後に子どもたちと共に『楽しく食べる』ための配慮や環境構成上の工夫について、取り組むべきいくつかの課題が確認されることになりました。

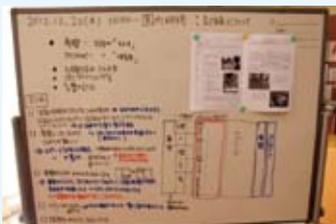
4. 当日の研修風景



今回は、管理栄養士からの問題提起を受け、クラス担任をはじめ、補助教諭、調理員、美習生、そして実習訪問にお出でいただいた大学の先生を交えての公開型園内研修を実施。  
まずは付箋を活用した「ラベルケースyon」により、次々に「対話」が生み出されます。  
2つに分かれてのディスカッションタイムが終わると、それぞれのグループから話し合われたことについての報告がなされます。その報告内容を、「ノーテーション」という手法でホワイトボードに

表現していきます。(※写真は12月の園内研修分)

参加者それぞれがメモを取るといいう方もありますが、特に新任の先生方はメモを取ることに必死になり、ディスカッションも深まらずあまり意味がないと考えました。そこで、ある程度ベテランの教諭(本園では主に主任がその役を担います)が代表して記録していく、いわばホワイトボードの上「報告書」を作成していくというやり方を採用しています。  
最後はデジタルカメラで写真を撮り、これを印刷し回覧、園内研修記録簿にフアイリングしていくという方法で園内研修記録の簡素化を図っています。(※写真は12月の園内研修分)



5. あさひ幼稚園主任教諭からのコメント

今回、クラス担任や補助教諭だけでなく、調理員の方や美習生、さらには訪問指導にいられた大学の先生にもご参加いただき、これまでにない普段以上に規模の大きな園内研修となりました。  
普段の研修でもラベル(付箋)を活用して個人個人の意見を引き出していくのですが、今回の研修の様子を見ていて、普段と大きく違いを感じた点は、その意見の交換がとても柔軟にできたことです。いつも話をしている保育者同士だけではなく、様々な立場の方と1つのテーマに基づいて話をしていく中で、視点の置き方や感じ方の違いをみんなで共有しながら意見交換できるという場の雰囲気や、ディスカッションを活性化させるポイントだったのではないかと思います。  
このような機会を毎回作っていくのは難しいと思いますが、こうした機会が、保育者にとっては大きな刺激となり、また参加していただいた方にとってもここ

で学んだこと、感じたことを持ち帰っていただければ、双方にとってよりよい場(互恵的な研修の場)になっていくのではないかと感じました。

園内研修とソングライティング

篠永 洋(活水女子大学)

保育者の養成に関わる仕事をするようになって10年が経とうとしています。もともと保育の仕事に興味があったわけではなかったのですが、縁あってこの仕事に就き、中村学園大学付属あさひ幼稚園の園長、那須先生と出会いました。そして昨年11月某日。その日、4週間の実習を行っている学生の指導訪問であさひ幼稚園を訪れた私は、学生の面談もそこに園内研修の渦に飲み込まれたのでした。

今回、その園内研修に「他者が関わる」との意義なり、おもしろさなり、危うさなりをひとことお聞かせいただけませんか? というところでこの原稿を書いているのですが、一寸ばかりびったりくるものがあつたので以下の4つの項目から改めて書いてみます。

- ・ 自分を知る作業
- ・ 共感を求めるための作業
- ・ 普遍性を獲得するための作業
- ・ 世界を友とする作業

これは昨年末、NHKで放送された「佐野元春のザ・ソングライターズ」の中で佐野元春がソングライティングについて語った部分のキーワードです。  
まず最初に「自分を知る作業」とは、

自分が何を感じているか言葉にすることによって確認するという作業です。これは、一方的に講師の話聞くだけではなく、設定されたテーマについて話をすることで、ぼやけていた輪郭線が明瞭にな

るといふこともあるでしょう。今回参加した研修ではそれぞれが紙に書き出してみたりもしていました。言葉にすることで自分の考えをより明確にすることもできます。そこに普段見ない顔(他者)の存在があることで、「伝えるための言葉」というものを強く意識させることができるともいえます。

次に、「共感を求めるための作業」は、自分のアイディアや考えに触れてもらうことで他者が別の視点や力を得たりすることが出来ます。もちろんその逆もしかり。他者から様々な影響を与えられ、共感することもあるでしょう。

その次は「普遍性を獲得するための作業」です。同じ職場で働いていても、人によって何を見て、どのようにとらえているのかというのはそれぞれ違います。独自の視点で目の前の対象物を、自分の心で性格に写し取る。ソングライティングにおいては「作品」の普遍性を獲得する(ここに繋がる作業)しようが、この「作品」をそのまま「保育(観)」の普遍性を獲得するに置き換えるとしっくりきません。

そして最後にくるのが「世界を友とする作業」です。これはもう言わずもがな。自分と自分以外の全てをつなぐこと。そのラインをより強固に、明確にするための作業。

どうですか、園内研修に他者が関わるということでのこの4つの項目のエッジがより美しく切り立つことになるでしょう。園内研修とソングライティング。繋いだのは「他者」かもしれませんが、そしてその「他者」とは、常に学ぶ心を持ったひとでなければなりません。そうなること、隣の幼稚園の園内研修ものぞいてみたいですね。

※本エピソードに関するお問い合わせは  
TEL: 062-831-9291  
E-mail: asahi@akamura-u.ac.jp  
【中村学園大学付属あさひ幼稚園】まで

# 「おやこフェスタ2012 in 海の中道海浜公園」

東区の幼稚園（19園）結束で

発展途上国の子どもたちに  
ポリオワクチンを・・・!!

「東区ようちえんフェスタ」実行委員長

貝塚幼稚園 園長 庄司 誠

東区幼稚園（19園）が協力して参加している海の中道海浜公園主催の「おやこフェスタ」、その中で同時開催している「東区ようちえんフェスタ」は今年度で4回目を迎えました。

2012年10月20日（土）コスモスが満開に咲き誇る海の中道海浜公園にて、東区の幼稚園（19園）が一致結束し、東区の先生と市民の皆さんや子どもたちと沢山触れあい、気持ちのよい1日を過ごしました。



その中でのメイン事業として、発展途上国の子どもたちにポリオワクチン接種が出来るよう、東区幼稚園（19園）がペットボトルキャップを収集する活動も3回目を迎え、初年度は18万5千800個

（ワクチン81人分）、昨年度は20万6千100個（115人分）、そして本年度は予想をはるかに上回る45万117個（ワクチン235人分）を東区の園児・保護者・先生で収集しイオン九州香椎浜店に寄贈、当日イオン九州株式会社 社長室長 林 憲司様より東区19園に対し感謝状を頂きました。



また、今回は福岡市市議会議員、東区幼稚園振興議員であります 森 英鷹 先生 より本事業に関するご賛同を得て、福岡市環境局の全面協力を頂き、タイアップした子どもたちへの環境教育も合わせて行うことができ大変感謝致しております。



東区の先生方が運営する幼稚園ブースでは、沢山の子どもたちとゲームや折り紙あそび、お絵かきで遊んだり、先生とのバルーン体験を行ったり、ご来場の皆様に幼稚園の先生の明るさややさしさを肌で感じて頂きました。また、東区19園の特色ある教育を各園自慢の手作り掲示板でPRし、幼稚園の素晴らしさをさらに感じて頂き、ステージイベントでは、幼稚園ウルトラクイズで東区の幼稚園に関するクイズをはじめ、福岡市私立幼稚園の補助金制度や預かり保育などを遊びながら学ぶなど、広くご来場の皆様に福岡市の幼稚園をご理解して頂けたと感じています。



このおやこフェスタには、「東区ようちえんブース」以外にも、「ソフトバンクホークス、アビスパ福岡の体験コーナー」、「紙ヒコキ教室コーナー」、「昔あそび体験コーナー」、「食育関連ワークショップコーナー」、また特別ゲストとして高見のつぼさのイベントショーもあり大変盛り上がりました。



当日の公式公園来場者数は、6千<sup>837</sup>名で、おやこフェスタ会場は大盛況の賑わいを見せ、中でも東区幼稚園ブースはどこよりも賑わいを見せました。東区の幼稚園にご協賛頂ける企業様も年々増えており、東区幼稚園園長会にお揃いの鮮やかなスカイブルーのTシャツを作っていたりなど、東区の幼稚園がまとまっていくいい機会になっています。

この機会を通じて、東区の幼稚園（19園）の素晴らしさや福岡市私立幼稚園の素晴らしさを知って頂くと同時に、公的な補助を貰っている団体としての社会的責任を果たせたのではないかと思います。





◆**プライバシーに対する考え方の変化**  
 神経質な市民(保護者)の方も  
 おられ、対応の苦  
 慮や悩みにも繋  
 がって行くもので

日時：平成24(2012)年11月14日(水)  
 15:00~17:00  
 場所：私立幼稚園教育センター  
 参加園：47園 47名  
 第一部：演題「個人情報の保護について」  
 講師：菊田 浩二氏  
 (福岡市総務企画局行政部情報公開室長)  
 第二部：演題「今、子育てにとって一番大切なこと」  
 講師：石橋 敏郎氏  
 (熊本県立大学総合管理学部教授)

**第一部 「個人情報の保護について」**

講師：菊田 浩二氏  
 (福岡市総務企画局行政部情報公開室長)

「個人情報の漏えいをしてしまうと幼稚園経営のダメージに繋がりがねない側面もあるの  
 で参考にしていただきたい。」と話し始めら  
 れた。

1 ◆**個人情報保護の適正な取り扱いの必要性(背景)**  
 ◆**情報通信社会(ICT社会)の進展**

多種多量なデータが一度に短時間に簡単に  
 コピーできてしまう。それがネット上に流れ  
 てしまうと事実上、  
 取り戻す事ができ  
 ない。

◆**個人情報の漏えい事件等の発生も**  
 たくさん起きてい  
 る。

◆**プライバシーに**  
 対する考え方の  
 変化(神経質な市民  
 (保護者)の方も  
 おられ、対応の苦  
 慮や悩みにも繋  
 がって行くもので

ある。個人情報  
 は個人の権利だが、役に立つ  
 もの・不可欠なもの(幼稚園の名簿、保護者  
 のいるんな情報)なので、保護と利用をバラ  
 ンスよくしなくてはならない。  
 情報漏えい事件の大部分が、誤操作と管理  
 ミス(紛失・置き忘れ、ルールの不十分さ)  
 に起因している。媒体の7割が紙(名簿)の  
 紛失や流出、電子メールなど、日頃している  
 ことから漏えいしている。  
 組織(職場)に於いては、全員が個人情報  
 保護の認識を共有することが大事。セキュリ  
 ティーは、「桶の理論」(弱い羽目板があれ  
 ば、その一枚の板から水が漏れる)が当ては  
 まる。

2 ◆**個人情報に関する法制「個人情報保護法」**  
 平成十五年制定(十七年全面施行)

幼稚園に関しては、文科省がガイドライン  
 を策定しており、細かいルールが定められて  
 いるので、それを遵守されること。  
 \*教職員の個人情報の取り扱い「厚生労働省  
 告示第357条

3 ◆**個人情報とは、個人識別情報かどうか**  
 ◆**プライバシー(公開されたくない私的な**  
**事柄)とは異なる。**

園に於いては、園児や保護者に関する、氏  
 名・性別・学籍番号・生年月日・住所・電  
 話番号・銀行の口座番号・勤務先・所得・経  
 済状態・保育料の滞納などの情報・病歴・健  
 康状態・宗教・成績・人物評価・写真がある。  
 中でも、**センシティブ(機微)情報**(それが  
 明らかになると、不当な差別につながるおそ  
 れが高い情報、病歴・健康状態・宗教・思想  
 信条など)は、取扱いに特に注意を要する。  
 メールアドレスも。園児の情報が入った携帯  
 を紛失すると情報漏えいになる。できるだけ  
 入れないがいい。セキュリティーのセッティ  
 ングを活用するがいい。写真やカメラの映像  
 (防犯カメラ、園行事の記録)も場合によっ  
 ては法の規制の対象になるので、あらかじめ  
 利用目的を(案内し、了解を得ておく)必要が  
 ある。  
 法的規制には、個人情報、個人データ、保

4 ◆**個人情報取り扱ひ事業者の守るべきルール**  
 (法十五条~三十一条)

●**個人情報の利用目的の特定、目的外の禁止**  
 園では、個人情報を取扱う場合は、利用目的  
 を保護者に分かるように示さなければなら  
 ない。(申込みの中に記載しておく。)緊  
 急時等、例外はある。

●**適正な取得、取得時の利用通知等**  
 園児の確認だけでなく、保護者の確認を取  
 る。できたら書面で行う。

●**個人データ内容の正確性の確保**  
 保存期間を設置するよう。

●**安全管理措置**  
 漏えいや滅失の予防のため、セキュリ  
 ティー確保のシステム・機器の整備をする。  
 ヒヤリハットを見逃さない。過去の事例を  
 活かす。

●**従業者・委託先の監督**  
 教職員の適切な監督・指導も大事。

●**第三者提供の制限**  
 保護者への緊急連絡網など、事前に同意を  
 得る必要がある。命にかかわる場合などは  
 例外。

●**利用目的の通知、開示、訂正、利用停止等**  
 請求がある時はガイドラインに沿って対応  
 を。泥縄にならないように、ルールを整理  
 しておく。

●**苦情の処理**  
 些細な事でも初期対応を誤ると大きな対応  
 に苦慮する事案になってくる。適切かつ迅  
 速に処理するため、苦情受付窓口の設置や、  
 処理手順の策定を行い、必要な体制の整備  
 に務める。

5 ◆**個人情報の適正な取扱いのために**  
 ◆**個人情報取り扱ひの原則**

大事な個人情報をお預かりし、取り扱って  
 いることを、普段から認識し、管理者だけ  
 でなく、全教職員にも徹底する。  
 本人に伝えた利用目的の範囲内であるかど  
 うか確認するよう心がける。

●**個人情報の廃棄は、シュレッダー処理や  
 データ消去などで確実に行う。**古いパソ  
 コンのハードディスク等は専用ソフトで  
 消去し、信頼できる業者に処分依頼する。  
 ●**事務室の外部の出入りには気を付ける。**  
 机の上に大事な書類を置いたままにしな  
 い。パソコンのモニターをつけたままにし  
 ない。  
 ●**職員以外の方が安易に事務スペースに立  
 ち入らないように制限する。**  
 ●**重要度に応じて人目に触れない場所での  
 保管。**鍵のかかる場所に保管。  
 ◆**文書を送付する時の注意事項**  
 ●**郵便物の発送はあて名と中身の確認をす  
 る。**複数人でチェックする。  
 ●**ファックスは送信ボタンを押す前にもう  
 一度番号を確認する。**「このファックス  
 にお心当たりがない場合はお手数ですが、  
 下記まで連絡をお願いします。」を付記  
 する。  
 ●**電子メールの一斉送信で、他人のメール  
 アドレスが知られないようにする。**  
 ◆**接遇に当たつての注意事項**  
 ●**エレベーター、バス電車の中では、個人  
 情報に関わる内容を話題にしない。**  
 ●**相談を受ける場合は、なるべく周囲の人  
 に聞こえにくいよう配慮を。**  
 ●**電話ではあまり情報をやりとりしないが  
 いい。**本人であることを確認する。「な  
 りすまし」は悪意があり、大変な事態に  
 なる事もあるので、十分注意して頂きた  
 い。  
 参考として、「もしも個人情報の漏えい事故  
 がおきたら」「いわゆる『過剰反応』を起こ  
 さないためには」、「業務遂行のためのフツ  
 のポイント」、「福岡市と私立幼稚園との補

◆**漏えいなどの防止対策**

●**個人情報**が記録された書類、ノートパ  
 コン、USBメモリ、CDRなどを不用  
 意に外部に持ち出さない。持ち出すとき  
 は、常に携帯し、盗難、置き忘れなどに  
 気を付ける。  
 ●**個人情報の廃棄は、シュレッダー処理や  
 データ消去などで確実に行う。**古いパソ  
 コンのハードディスク等は専用ソフトで  
 消去し、信頼できる業者に処分依頼する。  
 ●**事務室の外部の出入りには気を付ける。**  
 机の上に大事な書類を置いたままにしな  
 い。パソコンのモニターをつけたままにし  
 ない。

●**職員以外の方が安易に事務スペースに立  
 ち入らないように制限する。**  
 ●**重要度に応じて人目に触れない場所での  
 保管。**鍵のかかる場所に保管。

◆**文書を送付する時の注意事項**  
 ●**郵便物の発送はあて名と中身の確認をす  
 る。**複数人でチェックする。  
 ●**ファックスは送信ボタンを押す前にもう  
 一度番号を確認する。**「このファックス  
 にお心当たりがない場合はお手数ですが、  
 下記まで連絡をお願いします。」を付記  
 する。

●**電子メールの一斉送信で、他人のメール  
 アドレスが知られないようにする。**

◆**接遇に当たつての注意事項**  
 ●**エレベーター、バス電車の中では、個人  
 情報に関わる内容を話題にしない。**  
 ●**相談を受ける場合は、なるべく周囲の人  
 に聞こえにくいよう配慮を。**  
 ●**電話ではあまり情報をやりとりしないが  
 いい。**本人であることを確認する。「な  
 りすまし」は悪意があり、大変な事態に  
 なる事もあるので、十分注意して頂きた  
 い。

参考として、「もしも個人情報の漏えい事故  
 がおきたら」「いわゆる『過剰反応』を起こ  
 さないためには」、「業務遂行のためのフツ  
 のポイント」、「福岡市と私立幼稚園との補

助金等業務における個人情報取扱に関する協定について」等も示された。

園においては、職員の方にも「周知いただきたいといった願いをもって講義を終えられた。これらのことは、福岡市役所情報公開室（個人情報保護係）のホームページに記載されている、ということでした。

## 第二部

### 「今、子育てにとって一番大切なこと」

講師：石橋 敏郎氏

（熊本県立大学総合管理学部教授）



本研修案内に示してあった通り、バリエーションの熊本弁で話され、講演は面白くて楽しいものであった。

阿蘇郡南小国町という田舎で育ち、児童が十人しかいない小学校に通ったから「そ、いいことがいっぱいあるのだ、と言われる。そのことが、本テーマ「今、子育てに一番大切なこと」に一貫して流れていた。

一つは、自分から勉強する癖がついた。家は農家だった。勉強のことを尋ねると、父は「お母さんに聞け。」母は「忙しい。」と逃げて親の威厳を保つちよる。親に聞いても解らんとはいとなれば、自分で図書館に行って勉強する以外にないんやから。学校は複式学級だから、先生が一年生を教えている時、二年生は自習する以外にない。

二つ目に、むしろ恵まれない状況の中で、それを努力によって克服していく、そういう子どもの中に、将来の日本を背負う子どもがいる。ということだ。勉強のできないのを、自分の不勉強を棚に上げて周りのせいにして

る子どもがいるが、勉強しない子は、家庭教育師がついても勉強部屋にクーラーを付けても勉強しないんだ。

三つ目に、担任の先生が私の事をかわいがって大事に育ててくれたんだなあと思われる。「この通知表の中には、今の教育が失ってしまった何かが入っていると思う。と言って小学校の時の通知表を見せられた。一年生の二期、「敏郎さんは何でもよくできますね。なんでも長くできるから大将ですね。でも大将でないとダメなところありますね。それは、忘れ物、後始末。」三学期、「敏郎さん。二年になりますね。食事の前の手洗いは忘れないようになりましょうか。鼻の下の二本のレールは取り外しましょうか。」と書いてある。今の親だったら、国語や算数はどうなってるか聞いてくるでしょう。

中学は、担任の先生の勧めで、たった一人だけ熊本市の中学校に転校した。マンモス校で全校生徒が二千四百人、一年生は十六組までであった。みんな頭が良さそうに見える。ファッションといえば、髪が廂のようになっていた生徒がいる。「弁当事件」なる困った事があった。ご飯の真ん中に三角形のタラがポンと入った僕の弁当を、よそのクラスから来る奴がいたことだ。他の人の弁当は、おかずが半分位入っている。とうとうお袋に言いつた。「お母さん、今まで食い物について文句言った事なかったけど、今日は一言、言わせてくれ。都会では弁当を食う時、おかず交換なるものが行われている。タラ一本では、おかずの交換ができないではないか。おかずは複数入れてもらいたい。」「そりやあすまんかったねえ。」あくる日は、タラの横にきゅりの塩モミが山んごと入っていた。それから

おかずの事は一切言わなかった。複数に間違いなかもん。今の中学生だと泣いて帰るかもいれん。すると母親は校長室に怒鳴りこんでいく。学校は、ビビって「しばらくお待ちを。」生徒を集めて、「みなさん、人の弁当を見て笑うのはやめましょう。弁当は皆平等

であります。一訳のわからないことに。そんなこと言われても嬉しくない。もう学校には行きたくない。」と行かないでしようね。

私、田舎者は弁当事件を乗り越えたわけですが、それは私が育った環境のおかげと考える以外ありません。親が、兄弟のように遊んでくれた友達、自分の子どもと分け隔てなく世話をしてくれた村の人達が、毎日眺めた阿蘇山の雄大な景色が、私に教えてくれたんです。「弁当のおかずやファッションや住んでる所とかはちっぽけなこと。人生はもっとスケールの大きな大事なことがあるからね。あなたはその事だけに関心を持ちなさい。」と。

子どもは全て環境によってつくられる・地域で育てる。そんな時代がきたんだと思います。学校と家庭にもう限界がきている。子どもが手に負えなくなった母親が、きちんと躾ができていないことは棚に上げて、「先生方の指導が悪いからうちの子はこうなんだ。」と言う。学校の先生は叱るのも叱りつきらん。おどおどしながら、よたよた教育しているわけですよ。

市内の中学校に行っても困らなかったことは、たった十人しかいなかった小学校の時の能力と二千四百人いる中学校に転校した時の自分の能力が同じだったということです。人間どこに行っちゃ変わらん。通っている学校や勤めている会社の名前によって自分が偉くなったようになり、だめになったように思ったりしている。それは錯覚です。それぞれの置かれた環境の中で、どれだけ努力するかが人間の価値を決めるのです。《光る人材はどこにいても光るんだ》《光らない人間はどこにいても光らないんだ》

郡部の高校、農業高校、私立高校にもいい生徒がいるんですよ。私が選んで引く張って来た子を4年間育てて、市役所に戻りました。その子は「私はA高校しか出たらんばって熊本県立大学の石橋先生の所で行政の勉強をしてきたんだ。」と誇りを持ってくれる。そして、その子は、町の為に何かをやってくれ

る。これが私の考える町おこしなのです。町おこしの基本は人材ですもんねえ。よか人物がいる町が勝ちです。

「あんな高校から入学させて大丈夫かね。講義についていけるのかね。」と、県議員が出てきた。心配いりません。見栄を張ったり自慢したりする時代は終わりました。本人が目標を持って努力してるかどうか、人柄は立派な人か、二つで評価される時代がきたんです。やりたい事をひたむきにやるのが若者だ。若者に勢いがついてずうっと続いていくと自信につながっていく。しめたもん。

幼稚園に於いても大事な事は、基本は人材だ、という職員がその幼稚園にいるかが決定的だということも言いたかったんです。

社会福祉も専門分野の氏は、職員の在り方について話された。福祉や教育は、他人の命を預かる仕事だから絶対間違えられない、常に緊張状態の中でやっているとけない。人間を相手にする仕事ということだ。こちらが良かれと思ってやっても必ずしもそうとってこない。だから、子どもや親の為に一生懸命やってみる先生を見てみる。いつもつらい思いをして涙を流しとつとだるが！なあん考えて我儘で、気楽な事ばかり考えている先生は結構毎日楽しんでそう。ここに仕事の矛盾が出てきますよ。

私は講義の中で、「子どもや親の為に一生懸命やってそれが報われずに辛い思いをし涙を流すそういう職員になれ！」と言っています。きつい・汚い・給料が安いイメージのあるホームヘルパーを四十年間した人が、「この仕事は楽しか、やりがいがある。」と言わした。その人は、ホームヘルパーでなければ味わえない喜びを知ったんですよ。それが分かる人が何年も仕事が続いている。

皆さんだ、似たようなことはあるでしょうが、教育も難しいがやりがいがあるという事は間違いないですよ。

私は、職員に「これから面白い教員になれ。自分が頭で考えて、面白いアイデアを出しなさい。」と言っている。幼稚園でも、「こん



な事をやってみたらどうでしょう。子どもが喜ぶと思うんですね。「親はこんなことを悩んでいるようですよ。こんな会をしませんか。」など、自分の考えを言うことが大事と思う。ただ子どもの世話をする奇特な方という時代は終わっていませんよ。

入試で、南小国町の女の子に「今、小国町の人口はどの位ですか？」と聞いたら、しまった、小国町の人口調べてこなかったという顔をしている。私はその子に正しい数を聞いたのではないですよ。もし、その子が、「はい、平成元年十月一日国勢調査で、四千八百六十二名でございます。」その女の人を落としたと思います。理由は気色が悪かです。「数は分かりません。田舎で、人口がだんだん減っています。うちの町には、もう年寄りとか子どもしか残つたらんです。」それでよかったです。熊本市の男の子に熊本市の人口を聞いたら、「はい、五百万人ばかりおりました。」「大阪や名古屋」となや。合格！」その子は県庁に送り込みました。改革や先に進むためには、笑われてもいい、こういう風にならなければいけない。だから、採用試験も変えて行かないとね。「他の県のまねでない、熊本県独自の事業とはどんなことでしょうか。千二百字で書いて下さい。」「幼稚園の試験でも、他の幼稚園にない、うちの幼稚園だけの特色はどういうことを考えますか。」と言った風に。自分でアイデア出して書いた人が合格です。

希望はかかないませんからご安心ください。自分の思うようには育たないところが、子どもの良さである。自分の好みを子どもに押し付けるのではなく、何が正しい事なのかを子どもに教えよう。

私の母は、押しつけなかった。「大学に行ってもいいです。行かなくてもいいです。どんな大学に行ってもいいですよ。」「どんな仕事に就いてもかまいません。」

「自分の置かれた環境の中で一生懸命頑張んなさい。」「人間の価値を決めるのは、大学の名前でも仕事の種類でもないんですよ。そのことを忘れないように。」と言いつづけてくれたから、私は、母親を大事にしているんですよ。何が正しいことなのか一生見続ける。それが私たちが教師の仕事ですよ。

最後にストレス発散の必要性に触れられた。皆さんの仕事はストレスが溜まる仕事です。ストレスが緩和される方向でどこか、強化される方向に動きます。仕事と家庭を忘れられる場所を置く事が大事。それぞれが、ストレスから防衛する方法を持たん限り、この仕事を長く続けることは難しいですよ。案外、若い教員の中に、それをしきらんのがおるからな。一生懸命やっても、ぼろくそ言われる事がある。あざやんこつ言われた、と引きずっている。薬とかメンタルの医療に頼る前に自分のコントロールの仕方を持つ事が必要ですよ。

「難しい年頃の子ども達と接しながら一生懸命頑張ろうとしている先生ほど泣かなければいけません。教育の現実の中で、あるいは、子どもや親のことを思って一生懸命やったのにそれが理解されず、時には、かえって反発さえ招く事があるという教育の持つ独特の難しさの中で、なおかつ、情熱を失わずに子どもたちを指導して下さる福岡市の私立幼稚園の先生方に対して、最大の敬意を表したいと思います。」と結ばれました。

## 公開保育

平成24年度 中部地区  
(中央区・南区)  
塩原幼稚園・公開保育  
(1月28日)を参観して

今回の公開保育で、塩原幼稚園の年中・さくら組(29名)の保育を参観させていただきました。塩原幼稚園では子どもが園庭でのびのびと体を動かして遊んでいました。朝の会では、元気に挨拶をしたり歌ったり、当番紹介で、はきはきと発言したり、子どもたちの1日のはじまりが気持ちのよいものになるように配慮されていました。

また、主活動では節分の鬼のお面作りを参観させていただきました。教師が製作に入る前に導入として昨年の節分を振り返ったり、改めて節分の由来をわかりやすくカードを使って説明したりして節分への関心を高め、子どもたちも興味をもってお面作りに取り組んでいました。子どもたちは教師の説明をよく聞いて理解し取り組んでいて、教師も子どもたちが普段から話を聞いて行動することを大切に保育されているように感じました。

公開保育を参観させていただき、自分の普段の保育を振り返り、子どもとの関わり方、声かけの仕方、また子どもたちの興味・関心を引き出す環境作りを見直すよい機会となりました。これからも、学びながらよ

り良い保育ができるように努めたいと思います。  
このような機会をつくってくださった塩原幼稚園の先生方、ありがとうございました。

参加教諭 小山 明美



## 福岡市私立幼稚園連盟主催 設置者・園長・後継者研修会

日時：平成25年1月21日（月）

・講演会：17：00～18：30  
 ・懇親会：18：40～20：00

会場：西鉄グランドホテル

講師：三遊亭 楽春 氏（落語家・真打）

演題：落語に学ぶコミュニケーション術

参加園：45園 参加人数：59名



なぜ落語家が講演を求められるか。この問いから始まった講演は、師匠が落語家に弟子入りした時から今までの落語の世界で学んだ貴重な体験にもとづくお話であった。

テーマは「笑顔」。「笑顔に矢立たず」の言葉通り、人が出会う時、笑顔は相手の敵対心をなくし、安心感を与える。これがコミュニケーションの糸口となる。

落語の土台は氣遣い、心遣いで、その上に笑いがあることを、江戸時代から伝承されている客への氣遣いを一例に取り上げ、落語という芸の心の部分は愛情であることを話された。人への愛情こそが落語の神髄である。

面白い話をすればコミュニケーションが取れるわけではない。人と人が生きていく社会で豊かに共に生きていく上での知恵を落語の世界から学んだ。

講演は終始笑いに包まれた。講師三遊亭楽春氏の聴衆者への気配り心遣いが会場を温かく包んでいたことを記しておく。

## 平成24年度教職員体育大会

### 大会内容

No	プログラム	内容	参加人数
1	開会式・選手宣誓	—	全員
2	エアロビクス・徒手体操	準備体操	全員
3	ビッグウェーブ	チーム対抗なわ	各区20名(男女混合)
4	綱ひいちゃった	綱引き	各区25名(女性のみ)
5	おもしろジャンケン	ジャンケンゲーム	全員
6	気合を込めて!	ドッジボール	各区20名(女性のみ)
7	息を合わせて	大なわ跳び	各区22名(男女混合)
8	目指せ! ポルト	区対抗リレー	各区8名(女性7名・男性1名)
9	閉会式	—	全員



去る平成25年1月8日（火）

14:00～16:30、福岡市九電記念体育館にて、教職員体育大会が開催されました。

参加園94園、教職員参加アスリート679名が新年から元気一杯に体を動かし汗を流し、笑顔が絶えない楽しい大会となりました。参加者からは、「同じ仕事をする仲間と運動する事で心身共にリフレッシュ出来た!」や「なまっていたカラダを動かして良かった。三学期も頑張ります!」と声が聞けました。

2年に1度開催されるこの大会では、同じ幼稚園教諭を目指していた学生時代の友人に再会し、近況報告をしたり、競技を通して新しい仲間に出会うなど良き交流の場となっています。

この大会を企画・開催してくださった、福岡市私立幼稚園連盟振興委員会の方々、そして、参加されたすべての方々に感謝申し上げます。



乳房検査

(マンモグラフィ検査・乳房超音波検査)

乳がんが増え続けています！  
壮年期(30~60歳)女性のがん死のトップ

今日、乳がんは罹患率では胃がんを抜いて第一位となりました。日本人女性の16人に1人が乳がんにかかるといわれています。亡くなる方も年々増加し、女性の壮年層(30~64歳)のがん死亡原因の一位はやはり乳がんです。乳がんの発生にはエストロゲンという女性ホルモンが深く関わっています。ここ30年の乳がんの急激な増加は、生活やライフスタイルの変化がエストロゲンの分泌に影響を与え、乳腺組織に乳がんを起こしやすい環境をあたえているためと考えられています。

平成18年の全国平均マンモグラフィ受診率はなんと12.9%でした。検診を受けない理由として、「受診機会ないから」「職場の検診項目にないから」



(スクールバス駐車場を利用)

「20・30代には自治体検診がないから」という声が聞かれます。乳がんは**早期に発見・治療すれば「ほとんどが治るガン」**早期発見のために、定期的に乳がん検診を受けましょう。

(福岡和白総合検診クリニック資料提供)

2月5日、子育て情報誌「リトル・ママ」企画提案で西区のときわ幼稚園に福岡和白総合検診クリニックからデジタルマンモグラフィ検診車が派遣されました。日々、忙しなくなかなか検診を受ける事が出来ない保護者の方に向けて検診を実施しました。34名の幼稚園ママと教職員がこの日1日で検診を受けました。



(車内風景。車内は意外に広くて心地いい空間でした。検査の撮影は女性技師が担当します。安心です。マンモグラフィ検診料は2,100円です。\*検診車の場合)

今後、職場や団体施設などで、マンモグラフィ検査が気軽に受ける事が出来る環境が広まり受

診率が増えるとういですがね。

※幼稚園での検診者派遣希望園は連盟事務局までご連絡ください。

ときわ幼稚園 園長 久保えこ

私自身、毎年人間ドックを受けていたのに、昨秋乳がんの疑いが!!

乳がんは早めの検診でしか防げないことを実感しました。

今回、お母様方からの反響は大きく、30名の募集に対して2倍の応募が。受診後の感想は「家族のことが優先して自分のことが後回しになるので、子どもの在園時間に受診できて本当によかった。」「末就園児を連れて来られたので、やっと受診できた。」等です。母親にとって、乳がん検診は、気になつてはいるものの、なかなかハードルが高いようです。

役員さんが進んで未就園児の世話をしてくださいましたので、園の負担は少なく、是非、毎年実施したいと思っています。



(ときわ幼稚園内・受付風景)

にしてつストアカップ  
第29回福岡市私立幼稚園  
サッカー選手権大会

主催：福岡市私立幼稚園サッカー連盟  
共催：福岡市サッカー協会  
後援：福岡県サッカー協会、福岡市、福岡市教育委員会、西日本新聞、テレビ西日本  
特別協賛：西鉄ストア  
協賛：明治  
協力：アビスパ福岡、大阪フォトサービス、モルテン、フォトクリエイト

福岡市私立幼稚園サッカー選手権大会が2月2日(土)に博多の森競技場において行われました。当日は2月初旬とは思えない温かい晴日に恵まれる中、市内から18園55チーム、約735名の子どもたちが参加し、盛大な開催となりました。

夏の新人戦大会より半年が過ぎ、ちびっこ選手は一段とたくましく成長し今大会に戻ってきたことが伺え、大人顔負けの熱い戦いが繰り広げられました。チームのために一人一人が力を合わせ一丸となって全力プレーをする姿に、保護者の熱気あふれる大きな歓声が沸き起こっていました。

試合に負けて悔し涙を流す子どももいましたが、きっと今大会を通して精一杯頑張った経験が、これからの成長の中で、大きな力となってくれることと思います。

- 参加園
- あすなる幼稚園 (2)
  - 油山幼稚園 (5)
  - 飯倉幼稚園 (2)
  - けご幼稚園 (6)
  - さつき幼稚園 (5)
  - 自由ヶ丘幼稚園 (3)
  - 城南幼稚園 (3)
  - 高取幼稚園 (2)
  - 茶山幼稚園 (1)
  - 長丘幼稚園 (4)
  - 福岡幼稚園 (2)
  - 福岡文化幼稚園 (2)
  - 別府団地幼稚園 (2)
  - 星の原幼稚園 (2)
  - 松崎幼稚園 (2)
  - まつばら幼稚園 (4)
  - 美和台幼稚園 (2)
  - 紅葉幼稚園 (5)
- ※( )内は、参加チーム数  
園名は、あいうえお順

チャンピオンシップリーグ

優勝 さつき幼稚園Aチーム  
準優勝 メープルリースチーム  
3位 FCほしのはらAチーム



## 日本保育学会第66回大会開催のお知らせとご案内

平成25年5月11日(土)、12日(日)の両日、福岡市において『日本保育学会第66回大会』が開催されます。日本保育学会は、乳幼児の健やかな成長のために、保育の実践者と研究者が協力し、研究交流を深める学術団体です。本連盟加盟園の中にも会員となられている先生方もいらっしゃいますが、毎年、5月に全国大会が開催され、全国から2000名を超える会員が集い、基調講演や特別講演、海外から第一線で活躍している研究者らを招いての国際シンポジウム(通訳あり)やワークショップ、口頭発表・ポスター発表など2日間にわたって研究交流が行われています。

下記の通り、その全国大会が実に20年ぶりに福岡市で開催されます。保育・幼児教育の最先端の研究や実践に直に触れることのできる滅多にない機会です。保育・幼児教育の当事者として、是非ご参加ください。

### 記

1. 日程：平成25年5月11日(土)～12日(日)の2日間
2. 会場：中村学園大学・中村学園大学短期大学部キャンパス・  
中村学園女子高等学校
3. 大会プログラムの主な内容(右表参照)
4. 参加費：2,000円(臨時会員枠)  
※幼稚園の住所やご所属を確認できるものをご持参ください。
5. 連絡先：

【問い合わせ先：日本保育学会第66回大会実行委員会】  
〒814-0198 福岡県福岡市城南区別府5-7-1 中村学園大学内  
大会実行委員長 笠原正洋  
事務局長 那須信樹  
E-mail : hoiku66@nakamura-u.ac.jp / FAX : 092-851-5986



### 3. 大会プログラムの主な内容

1日目/5月11日土曜日		
9:30~13:15	14:00~16:00	16:15~18:15
開会式、大会講演会、社員総会、表彰式		
	国際交流委員会・実行委員会・OMEF日本委員会共催 国際シンポジウム※2 14:00~17:00 <無藤隆氏>	
	学会企画ワークショップ 編集常任委員会 <河邊貴子氏>	学会企画シンポジウムI 保育臨床相談研修企画委員会 <野本茂夫氏>
		実行委員会シンポジウムI 幼保小接続
	口頭発表1	口頭発表2
	ポスター発表1	ポスター発表2
2日目/5月12日日曜日		
9:30~11:30	12:30~14:30	14:45~16:45
特別講演 <土井高徳氏>		
学会企画シンポジウムII 災害時における保育問題兼K委員会 <太田光洋氏>	学会企画シンポジウムIII 課題研究委員会 <河邊貴子氏>	学会企画シンポジウムIV 保育政策研究委員会 <村山祐一氏>
	実行委員会企画保育セミナー3 子どもの遊び場 <古賀彩子氏>	
実行委員会シンポジウム2 保育者研修のパラダイムシフト	実行委員会シンポジウム3 未来を拓く絵本	
口頭発表3 ビデオ発表	自主シンポ1	自主シンポ2
ポスター発表3	ポスター発表4	

(※都合により、プログラムの一部が変更になる場合もあります。)

## 養成校の就職事情を研究する！ Part 2

元気な幼稚園づくりには欠くことの出来ない保育者。しかし昨今、待っていれば人材が集まる時代ではなくなっています。園、養成校どちらからも聞こえてくるのは『幼稚園の先生になる希望者が減った』『採用しても続かない』などの声。

7月、12校の就職説明会(キャラバン隊)終了後、養成校にヒアリングに出向いたのに引き続き、12月に再度、柿迫会長が『幼稚園の魅力』という演目で養成校にて講演をおこないました。学生に幼稚園に対する興味関心を今まで以上に持ってもらう、各園の採用につなげてもらうことを目的に今年度から取り組み始めました。今回は精華女子短期大学、西日本短期大学、西南学院大学、そして中村学園大学・同短期大学部に訪問しました。

引き続き、連盟では幼稚園側が取り組むべき対策は何か、養成校との連携をどう図っていくか考えていく必要があると思います。来年度は更に積極的に養成校に出向き、学生たちに幼稚園教諭とは誇り高き職業であり、子どもの笑顔に囲まれる楽しい仕事でもあり、保護者から感謝を受けるやり甲斐のある職業だということをアピールしていくつもりです。



2012年12月15日(土)中村学園大学短期大学部において

## 編集後記

### PM2.5(=微小粒子状物質)とは???

大気中に浮遊する粒子状物質であって、その粒径が2.5μmの粒子を50%の割合で分離できる分粒装置を用いて、より粒径の大きい粒子を除去した後採取される粒子のことをいいます(1μm = 0.001mm)。

### PM2.5の環境基準

- 1年平均値が15μg/m<sup>3</sup>以下であり、かつ、1日平均値が35μg/m<sup>3</sup>以下であること。
- ☆2月15日、福岡市子ども未来局から各園にPM2.5に関する情報の提供がありましたように、PM2.5は呼吸器系疾患やアレルギー疾患への影響が懸念されております。毎朝7時頃に情報提供される園近隣の測定値予報を確認し、園児への配慮を行ってください。※測定値は、福岡市HPのトップページ上のバナーから閲覧できます。
- ☆環境省は2月28日、大陸からの飛来が問題になっているPM2.5による健康への悪影響を防ぐため、大気中濃度が一日平均70μg/m<sup>3</sup>超とする高い日に外出や屋内の換気を控えるよう市民に注意を呼びかけることを盛り込んだ暫定指針を決めた。



福岡市ホームページから閲覧できます。

花粉症、黄砂、光化学スモッグ、さらにPM2.5と汚染された空気に苦しんでおられる方も少なくないと思います。困ったものです…多忙な時期でこそ、空気の澄んだ美しい春を少しでも多く楽しみたいものです。

私幼だよりの役割として、これからも園で役立つ情報をお届けするため、皆様のご意見、ご感想などをお待ちしております。来年度もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。(有吉)

## NEW ! 感染症 知っていますか登園基準の目安？

「登園基準は地域や園によってさまざま？」

「幼稚園は何を基準にして登園許可を保護者に伝えているの？」

幼稚園は集団で長時間生活を共にする場所です。登園に際しては、保護者に以下の配慮をお願いしましょう。

- ☆ 感染症にかかったら、医師の診断・指導を受ける事。
- ☆ 園内で感染症の集団発症、流行につながらない事。
- ☆ 子どもの健康・身体状態が幼稚園での集団生活に適応できる状態に回復している事。

平成24年4月1日より、「学校保健安全法施行規則の一部を改正する省令」が施行されました。インフルエンザ、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）、百日咳の三疾患について、登園基準が変更されました。

学校において予防すべき感染症のうち **第1種の感染症**（例：SARS、鳥インフルエンザなどの新型インフルエンザ、ポリオ、ペスト等）は原則として入院が必要となり、治療し感染力がなくなり完治するまで登園停止期間となります。

第2種、第3種の感染症（下表）は、病状により医師において感染の恐れがないと認められるまでは登園を停止すると規定されています。

### 第2種

病名	登園停止期間の基準
インフルエンザ	発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後3日を経過するまで
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
百日咳	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
麻疹（はしか）	発疹に伴う発熱が解熱した後3日経過するまで
風疹（三日ばしか）	発疹が消失するまで
水痘（みずぼうそう）	すべての発疹痂皮（かさぶた）になるまで
咽頭結膜熱（アデノウイルス／プール熱）	主要症状が消退した後2日経過するまで
結核	病状により医師において感染のおそれがないと認めるまで
髄膜炎菌性髄膜炎	病状により医師において感染のおそれがないと認めるまで

### 第3種

病名	登園停止期間の基準
流行性角結膜炎（はやり目）	医師により感染のおそれがないと認められるまで
急性出血性結膜炎	医師により感染のおそれがないと認められるまで
腸管出血性大腸菌（O-157、O-26など）	医師により感染のおそれがないと認められるまで

### 第3種その他

病名	登園までのめやす
溶連菌感染症	抗菌薬内服後24時間経過していること
マイコプラズマ肺炎	発熱や激しい咳が治まっていること
手足口病	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
伝染性紅斑（りんご病）	全身状態が良いこと
感染性胃腸炎（ノロ・ロタ・アデノウイルスなど）	嘔吐・下痢などの症状が治まり、普段の食事がとれること
ヘルパンギーナ	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
RSウイルス	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと
帯状疱疹（ヘルペス）	水痘と同様
突発性発しん	解熱し機嫌が良く全身状態が良いこと
伝染性膿痂しん（とびひ）	皮しんが乾燥しているか、湿潤部位が覆える程度のものであること（皮しん痂皮が湿潤している間は接触による感染力が認められる）

注）第3種その他の感染症について

- ・一定の登園停止基準は設けられていませんが発生や流行の動向によっては医師による登園許可の判断が必要となる場合があります。
- ・登園停止の必要のない疾患であっても診断は必要です。受診後、各園に伝えるように保護者に指導しましょう。

※上記の基準は、「学校保健安全法施行規則」に準じています。